

森林総合監理士実践研修を開催

[森林技術支援センター・東濃森林管理署]

9月26日から28日の三日間、岐阜県中津川市で森林総合監理士実践研修を開催しました。

この研修は全国七箇所で開催されるもので、中部ブロックでは木材生産及び再造林コストの削減を課題として、「架線を利用した伐採・造林作業システムと木材流通」をテーマに現地検討及び討議等行いました。

研修の受講者は、県職員や国有林職員など九県から20名の参加がありました。

研修は、一日目は、伐採・造林一貫システム、採材仕分けの講義の後、作業システムの机上演習、二日目は、前日の演習内容を現地確認、供試木で採材検討、苗木生産現場でコンテナ苗の現状、共販所での仕分け方法を踏まえ、作業システム・搬出方法、造林作業の省力化、採材の検討、三日目は、班ごとに作業システム等の発表と意見交換を行いました。

参加者の中には、集材機集材を経験したことのない方もおり、良い経験になったとの感想が聞かれました。



搬出計画の検討をする参加者



採材方法の説明に真剣に聞き入る